

平成29年度天皇杯受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

味で勝負する「焼き芋」販売戦略による地域活性化と農家所得の向上

○氏名又は名称 JAなめがた甘藷部会連絡会（代表 箕輪 秋雄）

○所在地 茨城県行方市

○出品財 経営（かんしょ）

○受賞理由

・地域の概要

行方市は、霞ヶ浦と北浦に挟まれた半島状の地形であり、両湖岸は平坦な水田地帯、中央部は赤ノッポ土壌からなる起伏に富んだ傾斜畑地帯が広がる。同地域では年間約60品目を生産しており、首都圏消費地まで70km圏内という大消費地に近い地の利を活かし、首都圏における生鮮野菜の供給基地としての役割を果たしている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

当部会は、平成10年頃からの景気低迷等の影響によるかんしょの消費落ち込みや販売価格の低下により農業経営が不安定となる中で、それまで冬場の引き売り販売による高価な商品という印象が強かった「焼き芋」を、いつでも手頃な値段で買え、味でも勝負できる「焼き芋」とするため、関係者と連携し、焼き方や味に関わる内容成分の分析を行い、良食味品種の高品質栽培技術を確立させた。この「焼き芋戦略」が実を結んだことにより、品目転換する生産者が増え、栽培面積は平成17年の487haから平成27年には700haへ、販売金額は14.5億円から36.9億円へと拡大しており、かんしょを軸とした地域づくりと農家所得の向上を実現している。

・受賞者の特色

(1) 「焼き芋戦略」の成功によるかんしょを通じた地域農業の振興

当部会は、生産者、仲卸売業者、小売店と協力し、地元スーパー店舗内に電気オーブンを設置して焼き芋販売を開始。また、3品種（紅優甘、紅まさり、紅こがね・熟成紅こがね）の栽培技術の確立とリレー出荷、キュアリング定温貯蔵（掘り取った芋を土付きのまま定温で貯蔵すること）による腐敗対策、でん粉含量別ほ場マップ化、「焼き芋」の美味しい焼き方マニュアルの作成などを行っている。

(2) 食品メーカーと連携した加工向けかんしょの商品化及び地域農業の活性化

全国展開している菓子メーカーと提携して、廃校を活用した体験型農業テーマパーク施設を建設し、加工施設、レストラン、お土産コーナーを設置するなど6次産業化にも積極的に取り組むことで、かんしょの消費拡大及び地域活性化を実現している。

・普及性と今後の発展方向

マレーシアやタイ等への輸出を進めるとともに、若手後継者の青年部組織「TEAM FUTURE」による栽培技術研究や全国各地のスーパー店頭での宣伝、他県の若手後継者との意見交換会の実施等、更なるかんしょ産地としての発展を目指している。